

## 令和2年度12月教育委員会 会議録

開催日時	令和2年12月17日(木) 15:00~17:00	
開催場所	町民総合会館 集会室	
出席者	委員	徳山順子教育長、大森茂委員、竹井成範委員、栗坂祐子委員
	事務局	黒木克美生涯学習課長、水玉匠紀学校教育課長、石原知子主幹
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会 教育長あいさつ</li> <li>2 議事・報告案件 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 義務教育学校検討会施設部会からの提案について</li> <li>(2) 岡山県学力・学習状況調査の結果について</li> <li>(3) 一人一台タブレット端末導入について ・GIGA スクール構想ガイドブックについて</li> <li>(4) その他</li> </ol> </li> <li>3 連絡</li> <li>4 閉会</li> </ol>	
会議資料		
傍聴者	なし	
会議録作成者	石原 知子	

### 会議内容

<p>1 開会</p> <p>教育長あいさつ</p> <p>教育長：先日行われた熟議では、一人一台端末について協議を行った。端末の設定が終わり、中3、小5・6の児童生徒に先日配付することができた。公共のものを大切に使う気持ちを大切にしてほしい。</p> <p>数検・算数検定の広報に早島町の教育について取り上げていただいている。算数ロゲイニングや放課後はやしま塾など学ぶ機会の提供について全国に向けてよいPRになっている。</p> <p>本日は、義務教育学校施設部会からの提案についてご意見を頂けたらと思う。</p> <p>2 議事・報告案件</p> <p>(1) 義務教育学校検討会施設部会からの提案について</p>
---

教育長： 1案から3案をご覧いただきたい。1案は、新しい土地に新しい義務教育学校を建てるというもの。2案では、小学校を残して中学校の敷地に5・6年生の校舎を建てるというもの。3案では、中学校に小学1年生から6年生までの6階建ての校舎を新たに建てるというもの。それぞれにメリットとデメリットがあり建物単体での評価、教育上の評価、納税者から見た評価を点数化し比較した。

1案は、建物単体での評価は高いが、多大な費用がかかり小中学校の跡地利用を含め、町内他施設との関連が強く単独で議論することが難しい。

2案は、費用と期間が実現可能な範囲で小中一貫教育に取り組むことができる。また、町民の賛同が得やすいと考えられる。デメリットとしては、既存の小中学校の改築に多大な費用と時間がかかる可能性がある。

3案では、小中一貫教育が可能であるが、運動場が極めて狭いことや既存施設の改築に費用と時間がかかることがあげられる。

令和元年度から構想期として、施設の検討を行っている。町長にも1~3案を見ていただき、1案は難しいだろうという意見をいただいた。総合的に判断すると2案が妥当と思ひ、2案を中心に提言書をまとめていく予定であり、今後は、カリキュラム等を整えていく。義務教育学校の完成は、令和9年が目途であったが、早島駅の改築の後となるので、もう少し後になるかもしれない。

資金面でも、1案では難しい。早島町では基金を駅に使用する予定があり、公民館や学校などの施設はこれから積み立てていかなければいけない。児童生徒数を考えても、将来的に各学年5クラスになっていくだろう。教室数の確保が必要であり、検討は引き続き行っていかなければならない。

大森委員：費用の面では実際2案でも8億ではなく、12~13億かかるのではないかと。

教育長：校舎の改築も含めると12~13億かかる可能性は十分ある。

竹井委員：1案では、51億円とあるが、敷地の取得費は含まれていないためもっと高額になるということか。

教育長：敷地取得費は含まれていない。土地も決まっていないため、予算もたたない状態である。

大森委員：文科省などに「モデル校」として予算をつけてもらうことはできないのか。

竹井委員：お金の面での工面が難しい。

教育長：予算的な面でも2案が妥当かと思う。

大森委員：中学校も現在の校舎が築年数50年経っている。どちらにしても改築は必要である。

教育長：義務教育学校を建てる時にプラスアルファで教室数を増やしておくことで余裕が生まれるのではないかとと思う。小中一体案が良いのはもちろんだが、費

用面、跡地利用を考えると2案が良いのではと思うがいかがか。

全委員：了承した。

## (2) 岡山県学力・学習状況調査の結果について

教育長：今年度は、県下一斉ではなく一定期間のうちに各校で調査を行っている。

早島町は、7月20日に行った。結果の概要を見ていただければわかるように、平均を下回る学年が多かった。特に小学校では、低学年からつまずきが見られ、大変厳しい状態となっている。

質問紙の中で、家庭学習時間が県平均よりも少なく、小学生1時間以上、中学生2時間以上ということが守れていない。また、小学生でも中学生でも、家でネットやゲームを4時間以上している割合が15パーセントあり、家庭での学習時間の使い方に課題がある。

授業の中で、適用問題を解く数が少なく、時間配分などに工夫が必要である。

大森委員：家庭の中に、祖父母がいてくれるとか家庭環境にも影響されていると思う。

竹井委員：子どもたちは学校から帰っても、外で遊んだりせず、みんなゲームをしている。ゲーム時間が長くなっていることで学習時間が短くなっているのは当たり前だと思う。

栗坂委員：今は、大人もゲームに夢中になっているので、大人が良い手本にならない。小学校では、低学年の指導に力があるという話も聞く。

大森委員：eスポーツも出てきて、進路の選択肢の一つになっているので、一概にダメということとはできないが、やるならとことんやればよい。

竹井委員：ほとんどの子どもは楽しいからやめられない。

教育長：自制心が効かない幼稚園・低学年は規制も必要だと思う。

大森委員：夫婦の共働き、祖父母の雇用延長など子どもが一人で過ごす時間がどうしても長くなっている。

竹井委員：自由に過ごす時間が長いという現状を変えることは難しいが、現状の中で子どものゲーム時間を制限するにはどうしたらよいのか。

教育長：幼いころに習慣づけをするのが大切。時間は短くても机に向かう時間を作ることが大切。

竹井委員：ゲームやネットの利用時間を親が把握して示すことも大切だ。

栗坂委員：PTAの取り組みとして、リミットスクリーンを定着させることで、保護者の意識も変わるのではないか。

教育長：リミットスクリーン週間は、保護者も一緒に守ってくれるが、それを持続させることが難しい。

大森委員：子どもたちにとって、習慣づくるとよいことがあるというメリットがないと難しい。

教育長 : 主体的な学びができるようにならないといけない。臨時休業をした時の様子を見ていて、学習の習慣づけができていない子は、学力の差が大きくなっていると感じた。

主体性を育てるのであれば、教員も教材研究が必須である。結果ではなく、プロセスや努力していることを認めていくことが大切である。親も自己肯定感が低くなっているので、親の自己肯定感を育てるために、家庭との連携を図っていききたい。学力・学習状況調査についてはよろしいか。

全委員 : 了承した。

#### (3) 一人一台タブレット端末導入について

教育長 : 5・6年生は、教室に保管庫を置いて、一人一台端末を活用していく。ガイドブックを教員に周知し実践に生かすとともに、児童生徒にはパスワードの管理や公共のものを利用するという意識を高めていく。

先日の熟議でも、安全な登下校と文房具として ICT について協議を行った。

大森委員 : 熟議は小学生がともしっかりしていた。

教育長 : 小中学生にとって、とても良い経験になったと思う。19日(土)には、英語暗唱大会を文化ホールで行う。今年は、町内外から30名の応募があった。子どもたちに様々な発表のチャンスを与えることで、誰もが自信をもって発表することができるようになる。

イ草田については、早島中学校2年生全員で4000株のイ草を分けて植えることにした。寒いときにイ草を植える体験をすることで、イ草を身近に感じることで、商品開発につなげていきたい。イ草田を荒らさないように、生涯学習課で草刈り等の管理はしていきたい。また、町民からボランティアを募り、持続可能になるようにする。イ草の火を消さない取り組みをしていきたい。

教育長 : 一人一台タブレット端末導入についてはよろしいか。

全委員 : 了承した。

#### (4) その他

美星町の取り組みについて

### 3 連絡 (12月の予定について確認)

- ・ 1月教育委員会 1月21日(木) 11時30分～14時  
早島幼稚園